はよい子だ。ねんねしな。

其三（生母乳母共通）

「坊ちゃんはいー子だ。ねんねしな。ねんねこあんころ餅幾代餅。助總銅羅燒。米饅頭。坊ちゃんはいー子だ。ねんねしな。

（終り）

小兒の言行

芙蓉

或人が移轉をするとて、家を探して居る話をして、三田の方に、庭も廣くて、大層よい家が御座いました。から、早速問合せますと、彼方、否な事には、縊首が有つたのだそうで御座いましてね。といふを、少さき妹の小耳に挾んで、姉ちやん鞦韆があれば乘つて遊ぶのにいゝのにねー。なぜだろうねー。

姪の五つゝになれるが、叔母様の名は、祖母様の名は、と次第に問ひて、最後に、祖父様の御名は三次と、よく覺へたりしが、暫して祖父の入來られしを見て、祖父様、私祖父様の名を知つて居てよ。といふ何といつて見よ。と云はれば、あのー時計さ。

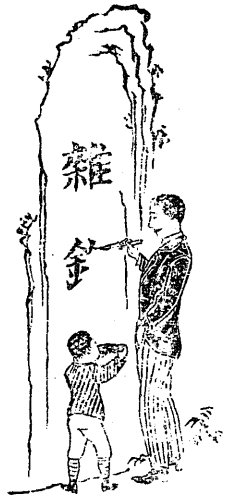
是も、同年程の男の子に、繪解をして、汝に出て汝に反る。と云を敎へしが、數時間の後に、前の詞を覺へて居るや。と問へば、暫く考へて、幾時に出で幾時に歸る。と答へぬ。

玆年三歳になりし女の子に、お前の生れた日は何日。と問ひしに、何と思つてか、オギャ〳〵といひぬ。

或男子下女に負はれて、緣日に行き、賣卜者の人立せるを見て、買つておくれよ。買つておくれよ。とせがむ。でもあれは、賣卜ですもの。といへば賣らないなら只見て行かうよ。

（：弟十歳の時兄妻を迎へぬ。或折母は、お前は小舅な

れば。といはれしに、何故と弟の問返し、かは、お前も姉様も凡べてお前方兄弟は嫁に對して小舅とはいふなり。と說明れしに、では兄さんも小舅かへ。



花の時

臥龍、江東の梅花既に過ぎて、更に、墨田飛鳥の櫻の時期となりぬ。急がしかりし學年末の試驗も片づきて、こゝ數日は、まさに身體の休養の時なり。學生にとりては、一年中眞の正月休なり。一日の閑を造りて、行いて野に山に散策を試みんか櫻花の空、菜黃の畑、微風の身にそよぐ、告天子の天に囀る、何れか心目を喜ばしめざる。行け〳〵、墨田は既に、孃を待てり、飛鳥も待てり。若し夫れ、飯田町を發し、往復三時間の瀛車を耕りて、小金井に遊ばんか、見渡す限り爛熳たる櫻花は、清流をさし挾むで幷ぶ。積日の鬱を散ずるは、まさに今日この時。大に鬱を散じて而して將に來らんとする炎熱に向つて、大に心身の鋭氣を養はれよ。

思ひ出るまゝ

仙臺から北へかけて、盛岡、北海道に至るまでは、殆半歲の間、雪に埋れて居る有樣なれども、花見には最も屈竟の地方なり。梅は四月に至るも尙開かず、況んや櫻花をや。東都に在りて、漸暑を覺え、重衣を脫せんとする五月の末つ方に至ればまさに此地方の春の最中にして、併も、東都以西の人の見るを得ざる梅櫻桃季百花一時に開く奇觀を呈し、殘雪は、たゞ遠